

令和5年度第3回多文化共生推進会議 議事録（要点録）

1. 開催日時 令和5年11月30日（木）9時30分から10時45分

2. 開催場所 可児市役所4階第3会議室

3. 出席者（18名）

（1）委員

近藤 敦	坂江シアンドロユウキ	浜口 旭波	佐橋 志保子
中田 実	佐橋 恒和	各務 眞弓	可児 整
佐野 朝子	藤村 祐子	土田 絵里子	眞野 純次

（2）事務局

市民文化部長	日比野 慎治		
地域協働課課長	田島 純平		
人権・国際係長	木村 彰伯		
人権・国際係	加藤 エジソン	照山 彩乃	梅村 萌

4. 内 容

（1）開会

（2）委員長あいさつ

（3）事務局説明

（4）議題

（5）その他連絡

（4）議題

1. 第4期可児市多文化共生推進計画の改定（案）について（資料1）

事務局）説明

委員長）事務局の説明について何かご意見がある方は挙手をお願いします。

委員）26ページに追加された内容で、「地域活性化とグローバル化への対応」の（2）番の3つ目の「外国籍児童生徒がグローバル人材として社会で活躍していくためには、小学校・中学校におけるきめ細かな学習支援が必要です」という文があるが、この具体的な事業内容が読み取れない。どちらかというとも高校生のキャリア教育を行うという施策になっているので、小・中学校におけるきめ細やかな学習支援を具体的にどうするかという内容は、どこに繋がるのか。

委員長）小学生は必ず中学生に進学するし、中学生もできるだけ高校に進学するので、その中で仕事を考えたり、大学進学という選択もあったりするだろう。母語教育までは学校でやれないとしても、母語の大切さを教えたり、身につけたり様々な就職の機会を広げていくということなのではないか。26ページの（2）のタイトルが、グローバル化人材ではなく、グローバル人材の方がよい。

委員）小・中学校で学習能力の習得はすごく大事だと思う。国語だけでなく、算数や理科などの教科については、身につけてないということをよく聞いているので、その子が分かる言葉で教えるのが良い。

委員) 国際担当の指導については、県下全部一緒である。公開授業の実施やオンラインでつなげないかということは案として挙がっている。ばら教室にもタブレットが入った。現場の方も少ないということで、離れたところからでも、ばら教室で学んだことが学校と繋がることのできる1冊のテキストができればいいということも案として出ている。各学校に常駐で通訳がいればいいが、可児市では、「笑顔のもと」を元に学習を行っている。これは全国キャリアパスポートを元に作成している。小学校1年生から中学校3年生まで学習した足跡を、1つのファイルに積み重ねていくというものだ。人としてどうやって生きていくか、何をしていくだとか、自分のよさは何だろうとか、そのようなこと全部でキャリア教育ということで今取り組んでいる。

委員) 小・中学校で通訳やっているが、生徒は、土日は家で日本語は使わないことも多く日本語を忘れることもあり、先生はすごく苦労しながらやっている。

委員) 26ページのグローバル人材。やはり小・中学校の時の基礎学力が大切だという点に関しては、35ページの体系図があるが、Ⅱの「子どもの教育における共生」の具体的な施策が大事になると思う。

委員長) 学校教育課でキャリアパスポートというのをやっていて、今後も引き続き実施するならば、50ページの主な取り組み主体に学校教育課を追加してはどうか。国際教室担当者等の指導力の向上など事業内容には具体的に入らなくても、実施することとして一つ案としてご検討いただけたらと思う。

委員) 支援員が日本語教師養成講座を受講してみるのもどうか。通訳も、サポートに入っていく中でどのように教えたら良いかなどの悩みは持っていると思う。

委員) 日本語指導ができる人材を育成したいということで準備していたが、文化庁の日本語教師養成というのは、日本語学校で教えられる日本語教師養成なので、あまり子どもの指導内容を入れすぎると、文化庁的には認められないのと、認定日本語教師や認定日本語教育機関のガイドラインが10月に出るとということで申請が一時止まっている。

委員長) プランにうまく取り込めてなくても、事業内容としてたくさん取り組んでいただけたらと思う。

委員) この可児市多文化共生推進計画の、現状と課題が特にわかりにくい。市民がもう少し分かりやすいと思えるものが良いのではないかと。現状が書いてあり、最後に課題を記載すると良いのではないかと。日本に定着している外国にルーツを持つ子どもに対する支援等について進捗状況は把握しているのか。

事務局) 年度末に進捗状況の確認を行っている。

委員) 支援等については、国際担当者会議だけではなかなか伝わっていかないので、どのように広げていくかということについては検討していかないといけない。

委員) 41ページの項目17の「小学校入学前の子どもを対象とした初期日本語指導の実施」という点についてだが、国際交流協会ではそのような指導をしているのか。幼稚園・保育園では、どちらかという生活の中で覚えていき、言葉を伝えるという程度なので、これを読んだときに、指導してもらえるとと思われるといけないのではないかと。また、50ページの役割の点で、意思疎通を図りとあるが、保護者の方に色々なことを伝えてはいるが、なかなか伝わらないということが現状である。すべて分かってもらえるわけではないので、意思疎通というよりは連携をしているという記載の仕方に変えたほうが良いと思う。

事務局) 修正する。

委員) 1 ページで、「経済的な目的だけでなく、日本の治安の良さや教育システム、インフラ等が整っていることによる家族の呼び寄せ」とあるが、医療を含めたほうが良いのではないか。

事務局) 検討する。

委員長) 議事が終了したので進行は事務局にお返しする。

事務局) 皆様のご意見いただき、事務局で検討させていただく。

事務局) 今後のスケジュールについて

10時45分 閉会